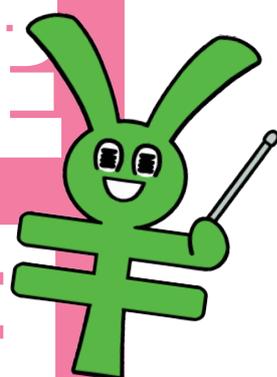


お金の知識をレベルアップ!

未来  レッスン

家計管理
資産運用



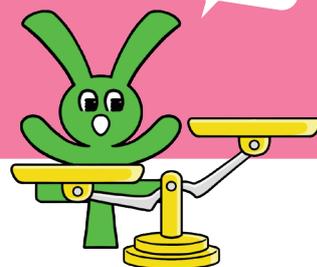
編





無計画にお金を使わないように 家計をきちんと管理しよう!

収入と支出を
天秤にかけよう!



働いて給与をもらうようになったら、自分自身でお金の管理をしていく必要があります。
どうすれば上手に家計を管理できるのか、そのポイントを学びましょう。



ワーク①

まずはあなたの家計の「やりくり上手度」をチェック!

あてはまるものに をつけましょう。



おこづかいが足りなくなると、
ついつい保護者に
前借りをしてしまう



友達から誘われたとき、
お金がなくても誘いに
乗ってしまう



自分の銀行口座に、
いくらあるか
分からない



お年玉をもらったら、
すぐにほとんどを
使ってしまう



ほしいものは
少し高価なものでも、
後のことを考えずに買ってしまう



ほかに必要なものがあったても、
趣味のためにお金を
使ってしまうことがある



働き始めたら、
スマートフォンは常に最新機種を
買うと思う



毎シーズン、
新しい服を必ず
購入している



流行には
敏感なほうだと思う



ほしいものがあると
つい買っちゃうんだよね...



同じものなら安く
買えたほうがお得だよ

診断結果



が1~3個の人は

チェックが少ないほど金銭感覚に優れていて、身の丈に合った暮らしができる人です。今の感覚を持ち続けられ、ライフイベントに必要なお金を貯めていくのも難しくないでしょう。



が4~6個の人は

金銭感覚は悪くありませんが、ほしいものがあると、手に入れたい欲求を止められない面も持っています。ほしいものは、おこづかいやお年玉を貯めた中から計画的に買います。



が7~9個の人は

ほしいものは我慢できない性格です。ほしいものを買うこと自体は間違った行動ではありませんが、優先順位をつけて計画的に購入しないと、社会人になっても貯蓄が難しくなります。



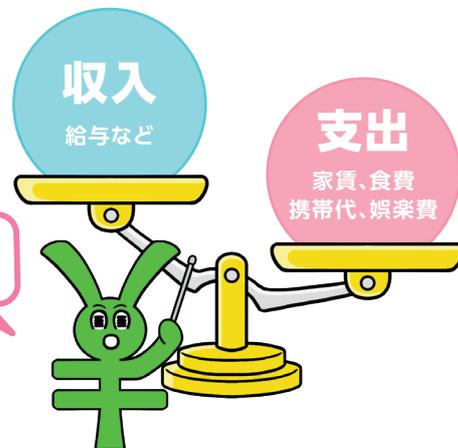
無計画にお金を使わないように 家計をきちんと管理しよう!

● 収支のバランスを確認する

家計は、給与などから得られる収入と、支出から成り立っています。支出は、家賃や食費など生活するのに欠かせない出費のほか、趣味や遊びなど自分のために使うお金も含まれます。

家計管理のポイントは、支出額が収入額を上回って、赤字にならないように管理することです。そのためには、収入と支出のバランスがとれているかを毎月確認していく必要があります。

まずは収入について詳しく見ていきましょう。



● 給与明細の中身を見てみよう

支給	基本給	時間外手当	通勤手当	支給額合計
	170,000	30,000	0	200,000

控除	健康保険料	介護保険料	厚生年金保険料	控除額合計
	A 9,810	B 0	C 18,300	46,085
	雇用保険料	所得税	住民税	差引支給額
D 600	E 5,675	F 11,700	153,915	

(円)

なんかいろんな
お金が
引かれてる!



手取り
収入

※ボーナスを4か月分と仮定して試算。健康保険料は39歳までの金額。

A 健康保険料

病気やケガをした場合に、少額の自己負担で治療を受けられるための保険料です。

B 介護保険料

40歳以上が加入対象で、介護サービスを少額で受けられるための保険料です。

C 厚生年金保険料

厚生年金は、老後に年金を受け取るための制度で、社員が現役時代に支払う保険料です。

D 雇用保険料

失業した場合や育児・介護などで休業した場合に、給付を受けるための保険料です。

E 所得税

国に納める税金で、個人が1年間で得た月収やボーナスに対してかかる税金です。

F 住民税

暮らしている都道府県と市区町村に納める、前年の所得に対してかかる税金です。

$$\text{収入} - \text{税金・社会保険料} = \text{手取り収入 (可処分所得)}$$



働き始めたら、税金や社会保険料を支払う義務があるんだ。これらのお金は給与から自動的に控除額として引かれるよ。

支給額合計欄の金額をすべて受け取れるわけじゃないんだね…





私たちの暮らしに欠かせない 税と社会保険のしくみ

社会保険は
転ばぬ先の杖



税金や社会保険料を支払う理由

税金や社会保険料を支払うことは、国民に課せられた義務の1つです。納められたお金は、社会保障や公共サービスの提供などに使われます。

たとえば、私たちが病院を受診したとき、実際にかかっている医療費よりも少ない負担で治療を受けられることは知っていますか？ それは健康保険という公的な制度が、医療費の多くを負担してくれているからです。また年金の保険料を支払うことで、将来、年金がもらえるのも社会保険のしくみによるものです。



税金の種類と使い道

直接税

税金を納める人が、直接、支払う税金を直接税といいます。企業が納付を代行してくれるものもありますが、基本は個人が国や地方自治体に、直接、税金を納めています。

所得税

個人が稼いだ1年間の所得にかかります。

住民税

個人が稼いだ前年分の所得にかかります。

相続税

一定額以上の財産を相続した場合にかかります。

固定資産税

家や土地、田畑、船などを所有している場合にかかります。

間接税

税金を納める人と、実際に納付する人が異なる税金を指します。直接支払っているわけではありませんが、モノを買う際などには間接税が上乗せされることが多くなっています。

消費税

モノを買ったときやサービスを受けたときに支払います。

地方消費税

左記と同じ条件ですが、納付先は地方自治体になります。

酒税

ビールや日本酒、焼酎などのお酒を買うときに支払います。

たばこ税

たばこを買うときに支払う税金です。

社会保険等の種類ともしものときの保障

社会保険料を納めることで、人生のさまざまな場面で、社会保障を受けられます。



病気やケガをしたら、病院で治療してもらわなくちゃ...

健康保険

病気やケガをしたときに、3割などの自己負担割合で治療が受けられる制度です。手術を受けて高額な治療費がかかった場合には、「高額療養費」という、さらに医療費の負担を軽減する制度も設けられています。



仕事を定年退職した後の生活費ってどうなるの？

国民年金・厚生年金

国民年金は、20歳以上60歳未満の国民に加入が義務付けられている年金制度。厚生年金は国民年金の上乗せとして、会社員や公務員が加入する制度です。これらの年金に加入することで、原則65歳から公的年金が受け取れます。



もしも、働けなくなったらどうしよう？

雇用保険

企業に雇用されている人が加入する制度。勤務中や通勤途中でケガをした場合には、かかった治療費が雇用保険から補償されます。また育児休暇を取得するときには、育児休業給付金が雇用保険から受け取れます。



将来のために貯蓄を心がけよう 上手な家計管理のコツ

赤字か黒字か
チェック!



● 支出の見える化が第一歩

家計管理するには、何にいくらお金を使ったかを見る化するのが確実な方法です。そのためにおすすめなのが家計簿で、右図はひと月の支出内容の一例です。使ったお金を固定費と変動費の2つに分け、どんな目的でいくら使ったかを記録します。集計することで、もし毎月の収支が赤字になっていたら、どの支出を見直して節約すればよいか分かりやすくなります。

また、近年増加しているキャッシュレス決済では、何にいくら使ったか出費が見えづらいため、家計簿にまとめるなどしっかり管理していきましょう。



いつも捨てていたけど、記録のためにレシートを取っておこうと!

■ 社会人の家計(支出)例

住居費	50,000円
スポーツジム代	10,000円
携帯電話代	5,000円

固定費

日々の行動や選択に関係なく、定期的にかかるもの。

食費	25,000円
水道光熱費	10,000円
日用雑貨代	5,000円
被服費	10,000円
趣味・娯楽費	10,000円
交通費	5,000円
雑費	5,000円

変動費

日々の行動によって金額が変わるもの。

貯蓄	20,000円
支出合計	155,000円



ワーク②

今おこづかいが3万円あったとして、その使い道を書き出してみましよう!

例 洋服代	
貯蓄額	
合計	30,000円

新しい服もほしいし、話題のお店にも行きたい!

貯蓄もしたほうがよいか



+TRY

実際のおこづかいの使い道についても支出の内容を書き出してみよう



おこづかいの使い道を計画的に考えることも大事! 周りの人と使い道について話し合ってみよう!



将来のために貯蓄を心がけよう 上手な家計管理のコツ

残りでやりくり
するのが大事!



●先取り貯蓄で確実に貯めよう

家計管理の基本は収支のバランスをとることですが、赤字にならないだけでよいというわけではありません。結婚や住宅の購入など、将来のライフイベントの資金を用意するために計画的に貯蓄をすることも大切です。

しかし、残ったお金を貯蓄にまわす方法だと、ついお金を使いすぎてしまって、なかなか思いどおりにできないものです。そのため収入から決まった金額を先取りで貯蓄しましょう。そうすれば使えるお金ははっきりとし、確実に貯蓄ができます。

手取り
収入

先取り
貯蓄

使える
お金



たしかにこれなら
確実に貯蓄ができるね!

支出をおさえるためのコツも覚えておきましょう



買う前に本当に 必要なものかを考えよう

必要なもの
生活に欠かせない

≠

ほしいもの
なくても困らない



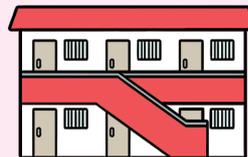
思わず衝動買いをして、後悔したことはありませんか? 限られたお金を何に使うのか、生活に欠かせない必要なものとほしいものを正しく判断することが大切です。「これ、ほしい!」と思ったときに、本当に必要なものなのか、一度冷静に考えてみましょう。その場ですぐ判断せずに時間をおくことで衝動買いを防ぐことができます。



支出を見直すときは 固定費から始めよう



住居費



通信費



家計の支出の見直しをする場合は、住居費や携帯電話代などの固定費から始めるのがおすすめです。固定費は、日々の行動や選択に関係なく、定期的にかかります。そのため一度見直して節約できれば、少額でも長期で見ると節約効果が高く、結果的に大きく支出を減らすことができます。



Key Point

キーポイント

- 支出を「見える化」して、無駄な出費があれば見直そう
- 残ったお金ではなく、計画的に先取り貯蓄をしよう



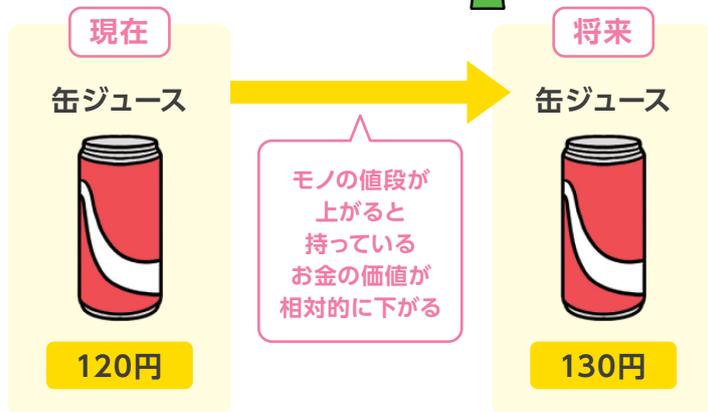
インフレに備えるために 資産運用を考えよう



● 資産運用が必要な理由

資産運用とは、株や投資信託のような運用商品に自分のお金を投資して、投資したお金が増えることに期待するものです。言い換えれば、自分が働いて得たお金の一部を投資に回して、そのお金にも働いてもらうことを目指す行為といえます。

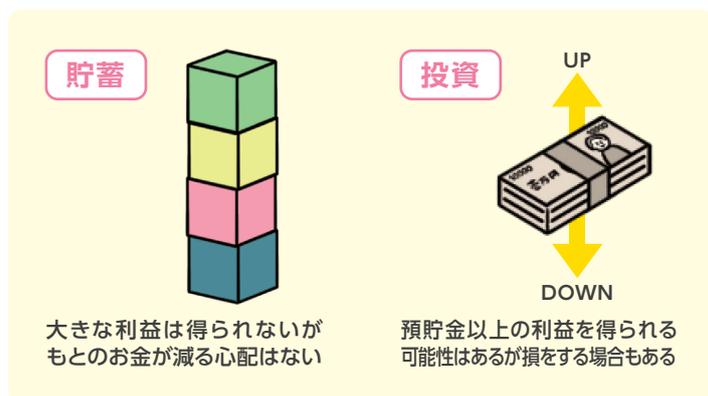
モノの値段が下がることをデフレといい、逆に上がることをインフレといいます。インフレ状態になってしまうと、現在と同じ値段では買えないものが出てきます。それは、お金の価値が下がるということです。預貯金でお金を貯めているだけでは、その実質的な価値が目減りしてしまうため、資産運用が必要になるのです。



● 貯蓄と投資の違い

銀行預金や貯金などに、自分のお金を預ける行為を貯蓄といいます。今の日本は「超」がつくほど預貯金の金利が低い状態であるため、預貯金によってお金を増やすことは難しく、インフレリスクに対応するのが難しい状況です。

そこで資産運用の出番です。資産運用をして自分のお金を増やせば、インフレリスクに対応したり、長い目で見れば、老後資金を用意することにもつながります。ただし資産運用には、資産が減るリスクもありますので、きちんと勉強をしたうえで行う必要があります。



主な投資商品の特徴

株式

株式は、株式会社に資金を出資している人(株主)に発行される証券です。株式を保有している間は、定期的に配当金がもらえることもあります。また購入した株式が値上がりした後に売却すれば、値上がり益を得られます。

投資信託

投資信託は、投資家(個人など)からお金を集めてファンド(運用の基金)を作り、運用の専門家がその資金を効率的に投資してくれるしくみです。プロに任せるため、運用の知識が豊富でなくても投資に参加できます。

債券

債券は国や企業などが、個人や企業からお金を借りる際に発行する文書(有価証券)のことです。保有している間は、定期的に配当金がもらえ、満期になれば、貸したお金(元本)が戻ってきます。



投資といってもいろいろな商品があるんだな

商品によってリスクの大きさが違うから、自分に合うものをよく調べる必要があるね

